

マーケットの動き（2022年3月7日～3月11日）

先週の国内リート市場は、前週末比で下落しました。

週の前半は、ロシアへの経済制裁や原油価格の高騰がインフレを加速させ、世界経済に影響を及ぼすとの懸念から下落基調となりました。10日はOPEC（石油輸出国機構）加盟国による原油増産の思惑から原油価格が急落したことを好感し、反発する場面もありましたが、その後は米国金利の上昇を受け下落に転じました。

セクター別では、住宅セクターが上昇した一方、オフィスセクターや商業・物流等セクターが下落しました。

投資環境見通し（2022年3月）

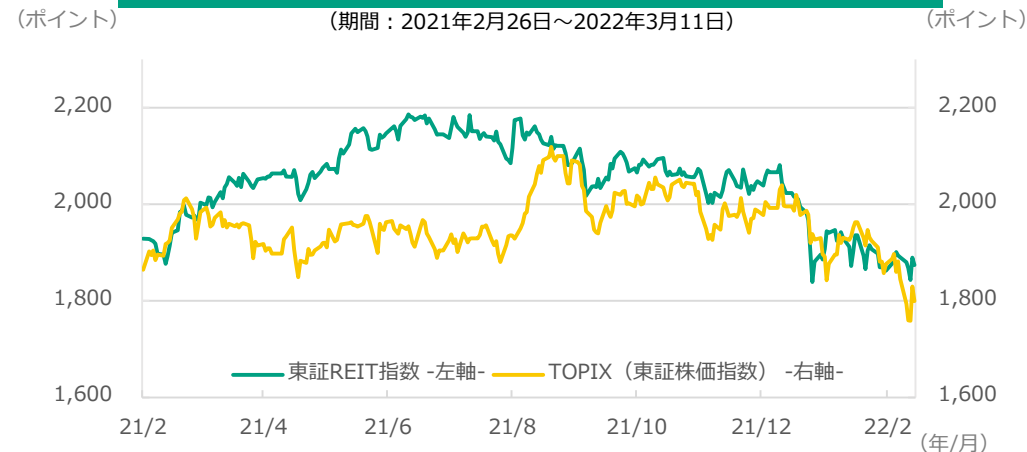
国内リート市場は回復基調を辿ると予想

新型コロナウイルス「オミクロン型」の感染拡大がピークアウトし、水際対策も緩和される中、オフィスや住宅、ホテルは昨年10月以降、稼働率が回復基調にあります。商業施設では賃料支払いの延滞や減免の影響が縮小してきていることから、今後の上昇が期待されるほか、物流では当面堅調な業績が見込まれています。国内リートが全体的に業績回復傾向にある中、市場の割安感は強まっており、国内リート市場は回復基調を辿ると予想しています。

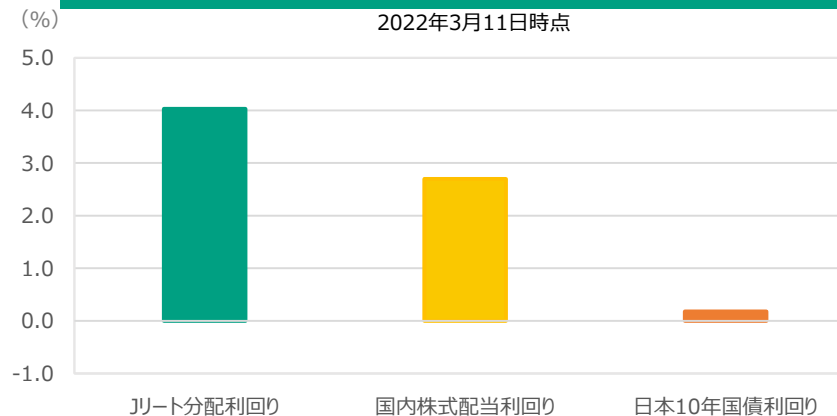
	3月11日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
東証REIT指数	1,874.16	▲0.84%	▲1.03%	▲11.69%	▲2.08%
＜ご参考＞ TOPIX（東証株価指数）	1,799.54	▲2.46%	▲6.79%	▲14.21%	▲6.51%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日(休日の場合は前営業日)までとします。

東証REIT指数、TOPIXの推移



国内各種資産利回り



※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>